

2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年10月29日

上場会社名 株式会社 プロトコーポレーション

上場取引所 東名

コード番号 4298 URL <https://www.proto-g.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神谷 健司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 鈴木 毅人

TEL 052-934-2000

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

2021年11月19日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	26,308	1.8	3,084	8.6	3,230	14.2	3,623	102.2
2021年3月期第2四半期	25,843		2,838	4.4	2,828	1.8	1,791	43.6

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 3,862百万円 (45.4%) 2021年3月期第2四半期 2,656百万円 (14.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	90.20	
2021年3月期第2四半期	44.62	

(注) 当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。これにより、2021年3月期第2四半期の売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	52,850	39,343	74.4
2021年3月期	49,388	35,934	72.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 39,308百万円 2021年3月期 35,901百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		12.50		12.50	25.00
2022年3月期		17.50			
2022年3月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	0.2	6,100	2.7	6,080	0.6	5,615	15.7	139.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、業績予想は当該基準適用後の金額となっております。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1 社 (社名) プロトベンチャーズ2号投資事業有限責任組合、除外 1 社 (社名) 株式会社プロトメディカルケア

(注) 詳細は、添付資料P.14「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	41,925,300 株	2021年3月期	41,925,300 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2022年3月期2Q	1,729,997 株	2021年3月期	1,766,217 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期2Q	40,169,409 株	2021年3月期2Q	40,159,487 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①当期の経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ワクチン接種の普及に伴い経済活動が正常化に向かう兆しが見られる一方、新型コロナウイルスの感染拡大懸念が残り、半導体不足や原材料価格の高騰などに伴う企業活動の抑制が見られるなど、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

こうした経済環境の中、当社グループの主要顧客である自動車販売業界におきましては、半導体不足の影響により、新車販売台数は7月以降、前年を下回る水準で推移しております。また、中古車登録台数についても、新型コロナウイルスの感染リスクを回避するための移動手段として高い需要がある一方、新車販売台数の減少による影響を受け、前年を下回る水準で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、多様化するユーザーニーズや今後の市場環境を踏まえて策定した「中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）」においてビジョンとして掲げた「サービスプラットフォームの構築」によるカーライフのトータルサポートの実現に向け、主に中古車販売店、整備工場、新車ディーラーを対象としたプライベートブランド商品・サービスの提供に取り組んでまいりました。

以上のことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は、26,308百万円（対前年同期比1.8%増）となりました。増収となった主な要因は、「MOTOR GATE」を中心としたサービスプラットフォームに関連するサービスの提供が順調に推移したことによるものであります。営業利益は、上記の増収による影響等により、3,084百万円（対前年同期比8.6%増）となり、経常利益は、3,230百万円（対前年同期比14.2%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、第1四半期連結会計期間において株式会社プロトメディカルケアの株式譲渡に伴う関係会社株式売却益の計上があったことが影響し、3,623百万円（対前年同期比102.2%増）となりました。

なお、事業のセグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。

②セグメント別の概況

(自動車関連情報)

業界No.1のサービスプラットフォームの構築を目指し、各事業領域におけるシェアの拡大ならびに顧客当たりの取引単価の維持・拡大に努めるとともに、カーライフにおけるユーザーニーズを網羅したサービスの強化に取り組んでまいりました。当第2四半期連結累計期間におきましては、引き続き、中古車領域において「グーネット」のコンテンツ量最大化、「グーネット」のバックグラウンドシステムである「MOTOR GATE」の提供及び機能向上を通じた取引社数の拡大等に取り組んでまいりました。整備領域においては「グーネットピット」におけるコンテンツの拡充を図り、有料掲載工場数の拡大に取り組み、新車領域においては「DataLine SalesGuide」の拡販に取り組んでまいりました。タイヤ・ホイール等の販売は、引き続き、主要取扱ブランドの販売強化ならびにタイヤ・ホイールのセット販売の強化に取り組むとともに、当社の「グーネット」、「グーネットピット」、「MOTOR GATEショッピング」等とのシナジーを追求することで販売機会の拡大に努めてまいりました。また、中古車輸出事業においては大手中古車輸出業者とのアライアンスを強化するなど、ビジネスモデルの強化に向けた取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、売上高は24,284百万円（対前年同期比7.1%増）となりました。増収となった主な要因は、「MOTOR GATE」を中心とするサービスプラットフォーム関連事業が堅調に推移したことによるものであります。営業利益につきましては、上記のサービスプラットフォーム関連事業の伸長に加え、株式会社グーネットエクスチェンジにおいて、大手中古車輸出業者とのアライアンス進展により収益性が改善したこと等により3,836百万円（対前年同期比13.1%増）となりました。

(生活関連情報)

2021年6月1日付で当社は当社連結子会社である株式会社プロトメディカルケアの全株式を譲渡いたしました。以上のことから、売上高は727百万円(対前年同期比62.9%減)、営業利益は59百万円(対前年同期比63.2%減)となりました。

(不動産)

当社が自社物件の賃貸管理を行っており、売上高は72百万円(対前年同期比3.3%増)、営業利益は72百万円(対前年同期比12.2%増)となりました。

(その他)

株式会社プロトソリューションにおいて外部顧客に対するソフトウェアの開発・販売などが伸長したことにより、売上高は1,223百万円(対前年同期比7.3%増)、営業利益は99百万円(対前年同期比65.7%増)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度の数値は当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。詳細はP.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)(収益認識に関する会計基準等の適用)」をご参照ください。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は52,850百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,461百万円の増加となりました。資産、負債及び純資産の状況につきましては、次のとおりであります。

i 資産

流動資産につきましては、現金及び預金ならびにタイヤ・ホイール販売事業における商品在庫の増加などから、35,450百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,826百万円の増加となりました。

固定資産につきましては、期末評価替えによる投資有価証券の増加などにより、投資その他の資産が増加した一方で、減価償却及び株式会社プロトメディカルケアの株式譲渡による連結除外に伴う減少などにより、17,399百万円となり、前連結会計年度末と比較して、364百万円の減少となりました。

ii 負債

流動負債につきましては、短期借入金や未払法人税等の増加などにより、12,424百万円となり、前連結会計年度末と比較して、298百万円の増加となりました。

固定負債につきましては、長期借入金の返済等により、1,082百万円となり、前連結会計年度末と比較して、245百万円の減少となりました。

iii 純資産

剰余金の配当501百万円やPROTO MALAYSIA Sdn. Bhd. の清算による為替換算調整勘定の実現が476百万円発生した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益3,623百万円の計上、期末評価替えによるその他有価証券評価差額金の増加などにより、純資産は39,343百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,409百万円の増加となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物につきましては、前連結会計年度末と比較して、5,583百万円増加し、23,743百万円となりました。現金及び現金同等物が増加した主な要因につきましては、次のとおりであります。

i 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、タイヤ・ホイール販売事業における商品在庫の増加に伴う棚卸資産の増加が1,539百万円、法人税等の支払額又は還付額が1,176百万円となった一方、税金等調整前四半期純利益5,863百万円、支出を伴わない減価償却費及びのれん償却額の合計が618百万円発生したことなどから、860百万円の収入となりました。

ii 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形・無形固定資産の取得による支出が636百万円、出資金の支払による支出が249百万円発生した一方、株式会社プロトメディカルケアの株式譲渡による収入が2,854百万円発生したことなどから、1,907百万円の収入となりました。

iii 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金による収入が200百万円発生した一方、長期借入金の返済による支出が167百万円、配当金の支払が501百万円発生したことなどから、513百万円の支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績に関する事項については、2021年7月30日公表の決算短信をご参照ください。

また、当社は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、業績予想は当該基準適用後の金額となっております。2021年3月期の期首より当該会計基準等を遡って適用した場合の業績予想は、次のとおりであります。

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	7.6	6,100	2.7	6,080	△0.6	5,615	15.7	139.74

なお、本業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算定しておりますが、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況の変化等により、実際の業績等は大きく異なる可能性があることをご了承ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,705	23,963
受取手形及び売掛金	5,010	4,034
棚卸資産	3,703	5,225
その他	1,211	2,230
貸倒引当金	△6	△3
流動資産合計	31,623	35,450
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,756	5,552
土地	4,570	4,694
その他（純額）	692	666
有形固定資産合計	11,019	10,913
無形固定資産		
のれん	1,124	620
その他	1,094	1,158
無形固定資産合計	2,218	1,778
投資その他の資産		
投資その他の資産	4,543	4,733
貸倒引当金	△17	△25
投資その他の資産合計	4,525	4,707
固定資産合計	17,764	17,399
資産合計	49,388	52,850

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,219	2,239
短期借入金	2,400	2,600
1年内返済予定の長期借入金	295	246
未払費用	2,608	2,633
未払法人税等	1,253	1,641
賞与引当金	158	263
商品保証引当金	25	20
契約負債	32	30
その他	3,132	2,748
流動負債合計	12,126	12,424
固定負債		
長期借入金	385	266
役員退職慰労引当金	225	229
退職給付に係る負債	8	16
資産除去債務	300	273
その他	407	295
固定負債合計	1,327	1,082
負債合計	13,453	13,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,849	1,849
資本剰余金	2,036	2,058
利益剰余金	32,447	35,568
自己株式	△1,306	△1,279
株主資本合計	35,026	38,196
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	543	1,111
為替換算調整勘定	330	0
その他の包括利益累計額合計	874	1,112
非支配株主持分	33	34
純資産合計	35,934	39,343
負債純資産合計	49,388	52,850

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	25,843	26,308
売上原価	14,067	14,322
売上総利益	11,775	11,986
返品調整引当金戻入額	10	—
返品調整引当金繰入額	0	—
差引売上総利益	11,785	11,986
販売費及び一般管理費	8,947	8,901
営業利益	2,838	3,084
営業外収益		
受取利息及び配当金	5	3
為替差益	71	181
その他	38	24
営業外収益合計	115	209
営業外費用		
支払利息	6	5
投資事業組合運用損	14	17
デリバティブ評価損	98	24
その他	6	17
営業外費用合計	126	63
経常利益	2,828	3,230
特別利益		
固定資産売却益	0	9
関係会社株式売却益	—	2,146
その他	—	478
特別利益合計	0	2,633
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	2,827	5,863
法人税、住民税及び事業税	1,178	1,565
法人税等調整額	△143	673
法人税等合計	1,035	2,238
四半期純利益	1,791	3,624
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,791	3,623

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,791	3,624
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	866	568
為替換算調整勘定	△1	△330
その他の包括利益合計	864	237
四半期包括利益	2,656	3,862
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,655	3,860
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,827	5,863
減価償却費	442	434
のれん償却額	215	183
貸倒引当金の増減額(△は減少)	38	5
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△10	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	145	122
商品保証引当金の増減額(△は減少)	1	△4
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△63	3
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2	11
契約負債の増減額(△は減少)	1	△1
受取利息及び受取配当金	△5	△3
支払利息	6	5
為替差損益(△は益)	21	△3
投資事業組合運用損益(△は益)	14	17
デリバティブ評価損益(△は益)	98	24
固定資産除売却損益(△は益)	0	△8
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△2,146
売上債権の増減額(△は増加)	△197	△340
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,066	△1,539
仕入債務の増減額(△は減少)	489	149
未払費用の増減額(△は減少)	174	134
その他	△24	△953
小計	3,111	1,953
利息及び配当金の受取額	5	2
利息の支払額	△5	△5
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,220	△1,090
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,890	860

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	500	—
有形固定資産の取得による支出	△68	△274
有形固定資産の売却による収入	0	11
無形固定資産の取得による支出	△193	△361
長期前払費用の取得による支出	△3	△14
投資有価証券の取得による支出	△506	△99
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	2,854
出資金の払込による支出	—	△249
その他	31	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△241	1,907
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	—	200
長期借入金の返済による支出	△210	△167
自己株式の取得による支出	—	0
配当金の支払額	△552	△501
リース債務の返済による支出	△43	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△806	△513
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	823	2,258
現金及び現金同等物の期首残高	17,336	21,485
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,160	23,743

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年7月14日開催の取締役会決議に基づき、2021年8月13日付けで、譲渡制限付株式報酬として自己株式36,300株の処分を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、その他資本剰余金が22百万円増加、自己株式が26百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末においてその他資本剰余金が22百万円、自己株式が1,279百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、当社グループが代理人として関与したと判定される取引については純額で表示しております。また、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりました販売促進費等の一部については、売上高から減額しております。当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。ただし、収益認識会計基準第85項に定める以下の方法を適用しております。

- (1) 前連結会計年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約について、比較情報を遡及的に修正しないこと
- (2) 当連結会計年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に含まれる変動対価の額について、変動対価の額に関する不確実性が解消された時の金額を用いて比較情報を遡及的に修正すること

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の売上高は1,612百万円減少し、売上原価は1,457百万円減少し、販売費及び一般管理費は155百万円減少しております。なお、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結累計期間等に係る四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連情報	生活 関連情報	不動産	その他	計		
売上高							
広告関連	10,504	—	—	—	10,504	—	10,504
情報・サービス	2,556	—	—	—	2,556	—	2,556
物品販売	9,611	—	—	—	9,611	—	9,611
その他	—	1,959	70	1,139	3,169	—	3,169
顧客との契約から 生じる収益	22,673	1,959	70	1,139	25,843	—	25,843
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	22,673	1,959	70	1,139	25,843	—	25,843
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	0	145	523	672	△672	—
計	22,676	1,959	216	1,663	26,515	△672	25,843
セグメント利益	3,391	161	64	59	3,677	△838	2,838

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去3百万円、全社費用△841百万円が含まれております。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連情報	生活 関連情報	不動産	その他	計		
売上高							
広告関連	11,239	—	—	—	11,239	—	11,239
情報・サービス	2,856	—	—	—	2,856	—	2,856
物品販売	10,188	—	—	—	10,188	—	10,188
その他	—	727	72	1,223	2,024	—	2,024
顧客との契約から 生じる収益	24,284	727	72	1,223	26,308	—	26,308
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	24,284	727	72	1,223	26,308	—	26,308
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5	0	146	698	850	△850	—
計	24,289	727	218	1,922	27,158	△850	26,308
セグメント利益	3,836	59	72	99	4,067	△983	3,084

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去4百万円、全社費用△988百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

(企業結合等関係)

(連結子会社株式の譲渡)

当社は、2021年5月10日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社プロトメディカルケア（以下「プロトメディカルケア」）の全株式を株式会社ベネッセホールディングス（以下「ベネッセホールディングス」）に譲渡すること（以下「本件株式譲渡」）を決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。なお、本件株式譲渡に伴い、プロトメディカルケアと同社の100%子会社である株式会社丸富士及び株式会社シルバーはあとは、当社の連結子会社から除外されます。

(1) 取引の概要

① 譲渡先の名称

株式会社ベネッセホールディングス

② 譲渡対象会社の名称及び事業の内容

名称	事業の内容
株式会社プロトメディカルケア	介護・福祉・医療領域における広告関連事業、福祉用具貸与・販売事業、人材紹介業及び派遣業
株式会社丸富士	福祉用具貸与・販売事業
株式会社シルバーはあ	福祉用具貸与・販売事業

③ 株式譲渡実行日

2021年6月1日

④ 譲渡株式数、譲渡価額及び譲渡後の所有株式数

譲渡株式数 11,200株（所有割合 100%）

譲渡価額 4,250百万円

譲渡後の所有株式数 一株（所有割合 一%）

⑤ 株式譲渡の理由

プロトメディカルケアの業績については事業立ち上げ以降、堅調に推移してきたものの、当社グループの中核事業である自動車関連情報セグメントと生活関連情報セグメントのシナジーを追求する中、両セグメントの事業成長に資する、大きな成果を上げるには至っておりません。こうした背景の下、当社は事業ポートフォリオの選択と集中の一環として、プロトメディカルケアの全株式をベネッセホールディングスへ譲渡することといたしました。

(2) 実施した会計処理の概要

① 譲渡損益の金額

関係会社株式売却益 2,146百万円

② 譲渡対象会社に係る資産及び負債の適正な帳簿価額ならびにその主な内訳

流動資産 1,889百万円

固定資産 589百万円

資産合計 2,478百万円

流動負債 344百万円

固定負債 30百万円

負債合計 374百万円

③ 会計処理

譲渡対象会社の連結上の帳簿価額と譲渡価額との差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上しております。

(3) 譲渡対象会社が含まれていた報告セグメント

生活関連情報

(4) 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている譲渡対象会社に係る損益の金額

売上高	608百万円
営業利益	53百万円